

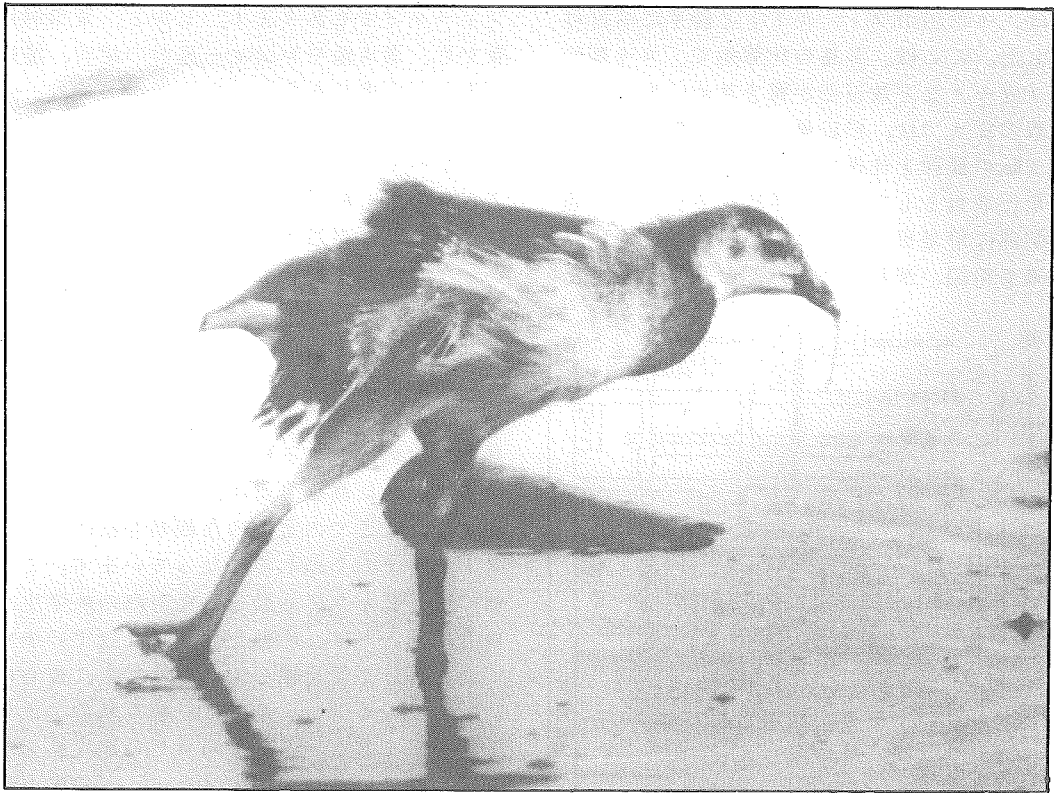


1986・10

第 29 号

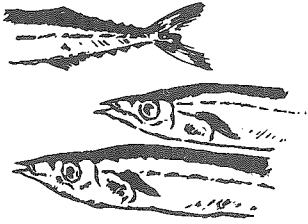
しろこぼと

日本野鳥の会 埼玉県支部



バン（クイナ科） 8月初旬の昼さがり、日曜とはいえ暑さで秋ヶ瀬公園も人影まばら。野鳥たちもさすがに姿をみせない。ところが、何げなく水棲植物園の端に止めた車のフロント越しに、尾っぽが短かくハネ上った水鳥の姿が目映った。「泳いでいるな、カイツブリかな。まてよ長い足で水辺を歩き始めたぞ、クイナかな。模様がどうも変だ、バンかな。いや顔に白いワッペンがない」などと考えながら車のドアを楯にして4～5枚写した写真の1枚がこれ。できあがった写真をながめて家族会議で検討し直したが一向に結論が出ない。図鑑にピッタリくるのが見当たらないのだ。ついに降参して支部事務局を訪ね写真を見せたらアッサリ「バンの幼鳥」とのこと。帰って娘に話したら「さすがにお父さんと違うね」と父親の權威を平然とつぶす。でも娘自身も世にも不思議な鳥であることを秘かに期待していたのかもしれない。（写真と文・阿久沢忠久）

マイフィールド



北海道もいい、軽井沢もいい、伊豆沼もいい。でも、やっぱりここが一番だ、一番好きだ。そんな三人のマイフィールドを御紹介します。

戸田中フィールド ——— 萩谷 洋 (世田谷区)

戸田市の南側の荒川河川敷のうちの、戸田橋付近からその上流約1kmまでの部分を、私達は、「戸田中フィールド」と勝手に名付けました。ここは、冬鳥の休憩地で、カモ類やユリカモメなど数百羽が翼を休めに来ます。一般の探鳥では、戸田橋から笹目橋までの、約3kmの範囲を往復するので適当でしょう。

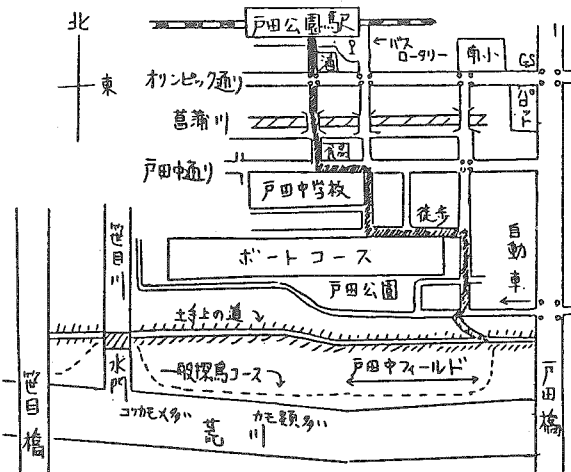
新任教員として戸田中学校に着任し、早速科学部に野鳥班（現在は自然保護部）を設け、以来6年間、部員達と定期的な観察を続けた

思い出の地です。サバクヒタキやコグンカンドリといった記録を残させてくれた、幸運なフィールドでもあります。しかし、荒川河川敷でも、遊水池やレジャー施設の建設、護岸工事などが進められています。ここでも、コチドリやオオヨシキリの繁殖が見られなくなり、ヒバリの営巣や、チョウゲンボウ、コミミズクの姿も稀になってしまいました。

この無益な自然破壊に対して、何もできなかった6年間に悔いを残しつつも、今年の4月、私は大宮の中学校へ転任になりました。それから一度も、ここへ足を運んでいません。

しかし、部活のOB達（駒崎君、高橋K君）は、市内の高校の生物部の中心部員として、身近な自然に対する取り組みを続けてくれています。特に高橋T君は、社会人2年目の現在まで、ここでの定期的な観察を続け、このフィールドの“ぬし”になっています。その他にも、私と共に活動をした市内の中学生、OBの何人かは、活動を続けてくれています。

例え自分が足を運んでいなくても、彼らの活動しているフィールドは、全て私のマイフィールドである。こんな図々しい満足感を与えてくれている、戸田中フィールドです。



毛長川周辺 ——— 香川裕之 (足立区)

1981年10月24日、台風24号が毛長川を襲い周辺は床上浸水に。その為に毛長川岸はコンクリートで固められ、環境はみるみるうちに悪化していった。そんな毛長川をなぜか自

分のフィールドにしてしまった。

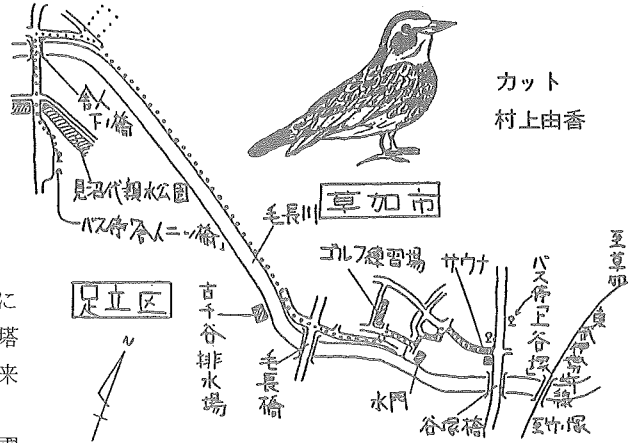
東武伊勢崎線「竹ノ塚」駅西口から安行原久保行きバスに乗り数分の「上谷塚」で下車。少し戻り、右の小道に入ると、左にハス田、

右に屋敷森が見える。カルガモ、コサギ、シラコバト、カラス等が生息し、冬にはハス田に30羽程のカモが渡来する。毛長橋までの道に一部田畑があり、冬、ツグミ、モズ、ジョウビタキ等が観察され、スズメの大群もいる。

毛長橋をすぎると対岸に、例の台風24号の為にできた赤色の排水場があり、水門前は春はコチドリ、冬はユリカモメ、時にセグロカモメも見られる所だ。右前方の鉄塔には秋から春にかけてチョウゲンボウが飛来し、目を光らせて獲物を狙っている。

約20分程で土手が終ると、右に小さい田圃があり、冬期は小鳥が多く、タンギヤアソ原にはアオジ、カシラダカ、コサギ等が観察でき、稀にベニマシコが見られたこともある。ウグイスも越冬し、春にはヒバリの声も。

舎人下ノ橋を渡ると微かに滝の音が聞えてきて、見沼用水東縁の終点2kmにある、見沼親水公園が見えてくる。ここで休憩し「舎人



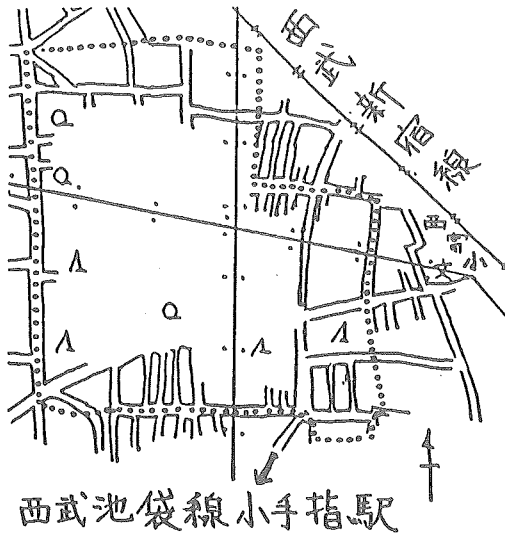
ニッ橋」バス停から竹ノ塚駅に戻るのが一番便利で経済的だ。

毛長川周辺やこの公園では、他にカワセミ、キセキレイ、ムネアカタヒバリが見られたこともあるので注意して歩こう。

毎年環境が変化していく毛長川周辺で、かくる自然観察するのも楽しいだろう。

北中地区の雑木林 ———— 西村幸生（所沢市）

この林は、西武池袋線小手指駅から徒歩15分の所にある。広さは約1km四方だが、今までに45種類前後の野鳥が確認されている。探鳥会も埼玉県支部により行なわれたことがある。



夏には、サンコウチョウ、トラツグミ、センダイムシクイ、イカル、カッコウなどが、冬には、アオジ、ジョウビタキ、ルリビタキ、キクイタダキ、シメ、カケス、カシラダカ等がやってくる。サシバ、ノスリ、オオタカ、チョウゲンボウ等の猛禽類も林の上空を飛んでいることがある。コゲラ、アオゲラも常連だ。

この林に一度行ってみてもよいと僕は思う。



誘惑されてミヤコドリ

海老原美夫(浦和市)

かんかん真夏の8月のある日、まじめに仕事をしている私のところに、悪友Y君からTEL。ミヤコドリを見て来たと言い、こまごまと道順などを話す。てやんでえ、仕事をさぼってミヤコドリなんて見に行けるかい、誘惑しておって悪いヤツだ。

4~5日して別の悪友F君からTEL。ミヤコドリを見て来たと言い、お前も見て来いとけしかける。ひどいヤツらだ。ミヤコドリがなんだ、仕事だ、仕事だ……。

女房がわめく、ミヤコドリを見たい、見たい、連れてって……。だまれ、だまれ、仕事だ、仕事だ……。



しかし、なんだなその、女房には日ごろ、いそがしい私の事務所の仕事に加えて、支部事務局の仕事でもけっこう苦勞かけているし、たまにはしかたないかな。そうだそうだ、やむを得ず、本当にやむを得ず、女房にミヤコドリを見せてやるか。

8月26日事務所をしめて船橋へ。船橋海浜公園の砂浜を左へ進み堤防を歩いて行くとアジサシ、コアジサシ、キョウジョシギなどなど。なぜかうミアイサが1羽、スズガモが20~30羽いたりして、ウミネコどっさり。堤防の切れたところで先の方を望遠鏡でのぞくと、赤いくちばしの4羽のミヤコドリ。いたいた、わああいた、ミヤコドリだあと女房はよろこぶ。うんうん、私は実にやさしい夫だ。

で、既に水着に着がえていた私は、そこに女房を置きざりにして、胸まで水につかって撮影機材をかつぎ対岸へ。そっと近づいて、浅い水の中にすわりこみ、撮影を始めた。

しばらくしてふとふり返ると、遠くの方で女房が、暑いよ、もう帰ろうよという顔をしている。だまれ、だまれ、お前はそこで日干しになって待っておれ。

あはは、その夜のビールのうまかったこと。

1986年

春のシギ・チドリ調査報告

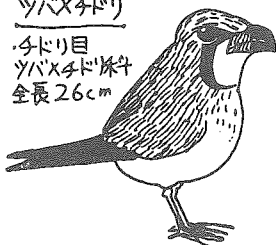
日本野鳥の会埼玉県支部研究部

調査日 4月27日、4月29日

{ + 10羽未満
++ 10羽以上 100羽未満
+++ 100羽以上 1,000羽未満

調査には会員の方々の絶大な御協力をいただき、感謝申し上げます。

ツバチドリ
・チドリ目
ツバチドリ科
全長26cm



執筆・萩原正二
小荷田行男

カット・比企 裕

種名	見沼田圃	秋ヶ瀬	大麻生	阪東大橋
コチドリ	+	+	+	+
イカルチドリ			++	+
シロチドリ			+	
ムナグロ	++	+++	++	
キョウジョシギ		+	+	
アメリカウズラシギ		+		
ウズラシギ		+		
ハマシギ		+	+	+
アオアシシギ			+	
クサシギ				+
タカブシギ		++		
イソシギ		+	+	+
チュウシャクシギ		+		
タシギ	+	++	+	
ジンギSP		+		

ボランティアに参加して

福田守剛（浦和市）

私は7月24日～7月31日までの間、北海道にあるウトナイ湖サンクチュアリーに、ボランティアとして行ってきました。

まずはじめに、ボランティアに四月から来ている後藤さんという人が、館内を案内してくれました。「さあ、がんばるぞ」と思ったが、一日目は大畑さんに“なれることが大事だから”という事で、皆の仕事ぶりを観察したり、展示物の説明の仕方を考えたりしました。また夕食を食べた後、暗やみの中、トラツグミやアオバズクのさみしげな声が印象的でした。

7月26日の事ですが、一日の仕事も終わって、この日は北海道大学の演習林で夜の探鳥会があったので、大畑さんとボランティアの皆とで行きました。その日は、演習林の林長さんも娘さんと一緒に来ていたので、特別に北海道大学でもっている塔の上から観察する事が出来ました。一番よかったのは、ヤマシギが暗やみの中を飛んでいく姿でした。また

演習林内にある資料館で見学する事も出来ました。ここにはシマフクロウやオオワシをはじめ、演習林やその近くで見ることのできる鳥獣の剥製を見る事が出来ます。それらのほとんどは、傷病鳥などではこぼれてきて死んだものや、事故で死んだものなのだそうです。

またこんなこともありました。夜の11時ごろから、安西さんやボランティアの人達と机をかこんで野鳥の話をしていました。ほんのりとした事から、安西さんがおばけの話をし始めました。それがまた迫力があつたものだから、女性のボランティアをはじめ、皆でふるえ上りました。

さてボランティアの楽しみにしている火曜日ですが、バードウォッチングにどこかへ出かけるのもいいし、近くにはレイクホテルのレジャー施設もありますし、近くの川ではヤマメやイワナが沢山釣れます。しかしボランティアとして一番大切なのは、ウトナイ湖に来た方々に自然のすばらしさを知ってもらふところにあると思います。



- ハチクマ ◇8月3日、鳩山町鳩山ニュータウンで2羽（海老原教子）。◇8月5日、北本市石戸宿で1羽（山口 博）。
- サシバ ◇8月17日、浦和市三室で1羽（三室探鳥会で）。
- ウズラ ◇8月7日、熊谷市大麻生で2羽（山口 博）。
- シロチドリ ◇8月17日、大宮市鴨川の関沼で1羽（福井 亘、横山みどり）。
- メダイチドリ ◇8月3日、熊谷市の荒川大橋下流で1羽（山口 博）。
- ムナグロ ◇8月3日、熊谷市の荒川大橋下流で3羽（山口 博）。◇8月14日、浦和市の秋ヶ瀬健保グラウンドで4羽（福井 亘）。◇8月17日、大宮市鴨川の関沼で2羽（吉本富美子）。
- ウズラシギ ◇8月4日、熊谷市大麻生で1

- 羽（山口 博）。
- クサシギ ◇8月3日、坂戸市今西地区で5羽（海老原教子）。◇8月4日、熊谷市大麻生で5羽（山口 博）。
- キアシシギ ◇8月10日、大宮市上小町の自宅近くの上空を1羽（鈴木高士）。
- ホトトギス ◇7月31日、浦和市太田窪の自宅近くで1羽（近藤 崇）。
- アオバズク ◇7月25日、浦和市本太で1羽（小荷田行男）。◇8月8日、浦和市大間木の氷川神社で親鳥2羽、幼鳥1羽（草間和子）。◇8月27日、大宮市北袋の斜面林で2羽（浅沼源太郎）。
- ショウドウツバメ ◇8月20日、熊谷市別府福川で150羽以上（山口 博）。
- モズの高鳴き ◇8月30日、午前7時、志木市柏町の自宅近くで（藤原寛治）。
- オオセッカ ◇8月16日、浦和市秋ヶ瀬で1羽（海老原美夫）。
- コムクドリ ◇8月17日、岩槻市村国で17羽（山部直喜）。



野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。
受付は探鳥会当日です。予約申込みは必要

ありません。

筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば
双眼鏡（なくても大丈夫）などをご用意
ください。小雨決行です。

参加費は、一般＝100円、会員と中学生以下＝50円

10月5日(日) 本庄市 阪東大橋

— 秋風渡る利根川 —

午前9時高崎線本庄駅北口集合(大宮7:43→熊谷8:27→本庄8:48着)。午後1時ごろ解散。ノビタキ、ジョウドウツバメ、シギ、チドリ類が期待できます。

(担当=萩原正二、北川慎一)

10月10日(祝日) 渡良瀬遊水池

— ミサゴが…、チュウヒが…、—

午前9時東武日光線柳生駅前集合(浦和8:05→大宮8:11→栗橋8:41東武線乗換8:52発→柳生9:02着)。午後2時ごろ解散。毎年ミサゴを始め多くのタカ類を見ることができます。栃木県支部との合同探鳥会です。(担当=中島康夫、楠見邦博)

10月12日(日) 熊谷市 大麻生(定例)

— 秋色濃い大麻生 —

午前9時30分秩父鉄道大麻生駅前集合(秩父鉄道熊谷9:09発→大麻生9:18着/秩父鉄道寄居9:12発→大麻生9:32着)。渡って来たカモ達やノビタキ、カワセミ。

(担当=鈴木忠雄、今井明巨)

10月19日(日) 浦和市三室地区(浦和市立郷土博物館共催・定例)参加費無料

— 気の早い冬鳥に会いましょう —

午前8時15分北浦和駅東口又は、午前9時郷土博物館前に集合。午後1時ごろ解散。ジョウビタキ、カケス、タンギ、コガモなどの冬鳥が見られるでしょう。

(担当=楠見邦博、福井恒人、森本國夫)

10月26日(日) 鳩山町 物見山

— 秋深い山道散歩 —

午前8時30分東武東上線高坂駅前又は、午前9時鳩山町公民館石坂分館集合。(朝霞台7:49→川越8:08→高坂8:29着/武蔵浦和7:26→大宮7:35→川越7:54→

東上線へ乗換え。高坂駅から鳩山ニュータウン行バス乗車、終点下車)鳩山町中央公民館共催。参加費無料。12時ごろ解散。こずえを渡る小鳥たち。もう来ているのはシメやジョウビタキ。ルリビタキに会うにはちょっと早いかな。(担当=海老原美夫、福井恒人、榎本秀和)

11月2日(日) 富士見市 柳瀬川

午前9時東武東上線柳瀬川駅前集合。

タゲリ、キジ、ハマシギ。

11月3日(祝日) 川口市 差間

午前武蔵野線東浦和駅北口集合。

シメ、ジョウビタキ、タゲリ。

11月8日(土) 日光 戦場ヶ原

午前6時50分大宮駅東武線改札口前又は、春日部駅日光線ホーム最前部7時40分集合。マヒワ、ベニマシコ、キバシリ。

11月9日(日) 熊谷市大麻生

午前9時30分秩父鉄道大麻生駅前集合。

ツグミ、アカゲラ、メジロ。

10月11日(土) 野鳥写真教室

午後3時～6時、浦和市立コミュニティーセンター(浦和駅西口から県庁通りを西進、中山道との交差点を左折、約600m歩いてつきのみや神社を通り越した右側。駅から約8分)2階の第2講座室。本部のフィルムライブラリー担当者として森下強事業部長の話は『良い写真の条件とは』。後半は良くて悪くてもみんなが持ち寄ったスライド大会なのだ。(担当=海老原美夫)



カット
村上由香

探鳥会報告

8月9日(土) 野鳥写真教室

8月10日(日) 熊谷市 大麻生

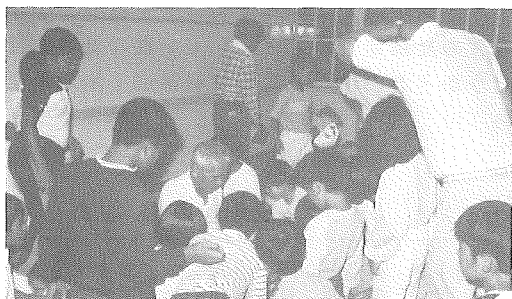
人 26人 天気 晴 鳥 カイツブリ
 ゴイサギ ササゴイ ダイサギ チュウサギ
 コサギ カルガモ キアシシギ イソシギ
 キジバト ヒバリ ツバメ イワツバメ セ
 グロセキレイ ヒヨドリ モズ セッカ ホ
 オジロ カワラヒワ スズメ コムクドリ
 ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブ
 トガラス(25種)ホオジロのさえずりの中、
 チョウやトンボを楽しみながら明戸堰まで。
 ササゴイのフィッシングも観察。

8月17日(日) 浦和市 三室地区

人 52人 天気 晴 鳥 コサギ サン
 バ チョウゲンボウ コジュケイ クサンギ
 タカブシギ キアシシギ イソシギ シラコ
 バト キジバト カワセミ コゲラ ツバメ
 イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ
 ヒヨドリ シジュウカラ ホオジロ カワラ
 ヒワ スズメ コムクドリ ムクドリ オナ
 ガ ハシボソガラス ハシブトガラス(26種)
 暑さの中にどこことなく秋の気配が感じられ、
 青空高くサンバが舞っていた。9月5日のバ
 ードソン(ツル保護募金の行事)に参加する
 東京アシックスチームのポール・ヘイル夫妻
 とお嬢さん、当支部の松井さん、横山さんも
 参加し、キャンペーンの呼びかけを行った。

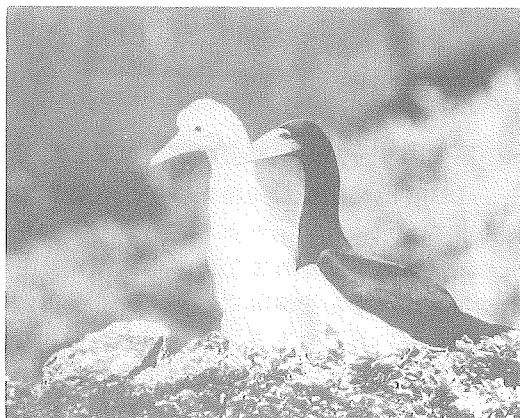
8月23日(土) 両神村ふるさとキャンプ場

人 43人 天気 雨 親子自然観察会



(宮崎会長とともに)

あいにくの雨にもかかわらず、秩父愛鳥会
 の宮崎会長の御指導でシジュウカラ用巣箱づ



人 20人 園部浩一郎さんがインド、タイ
 などで写して来た貴重なスライドを披露。中
 国のトキの最新情報には思わず身を乗り出し
 た。北硫黄島で撮影したカツオドリ(写真)
 の顔の青さはただ事ではない。きっとビョウ
 キなのだ。

くりに取り組み、親子協力してりっぱな巣箱
 を完成した。夜は、花火遊びや野鳥スライド
 クイズを行ない、50種すべて当てた小学生も
 出た。雨の中の探鳥会では、カワガラスを観
 察できて、子供達は満足そうだった。

8月24日(日) 千葉県習志野市 谷津干潟

人 約300人(埼玉県支部28人) 天気 晴
 鳥 ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ
 シロチドリ メダイチドリ ムナグロ ダイ
 ゼン キョウジョシギ トウネン ハマシギ
 コオバシギ オバシギ キリアイ コアオ
 シンギ アオアシシギ キアシシギ イソシ
 ギ ソリハシシギ オグロシギ オオソリハ
 シシギ ダイシャクシギ ホウロクシギ チ
 ユウシャクシギ ユリカモメ ウミネコ コ
 アジサン キジバト ヒバリ ツバメ ハク
 セキレイ ヒヨドリ セッカ カワラヒワ
 スズメ ムクドリ ハシブトガラス(37種)
 盛大に近県7支部の合同探鳥会。引き潮で現
 われて行く干潟に次々舞い
 降りるシギ・チドリの群れ。
 ピューと涼しげなダイゼ
 ンの声。埼玉県にも海が欲
 しいなー。



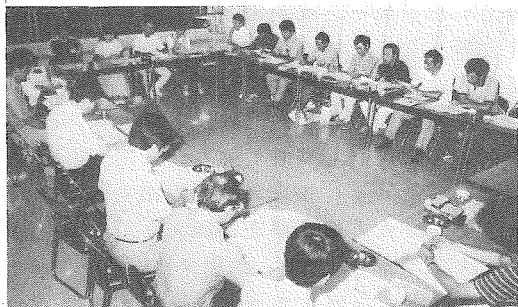


連絡帳

第3回リーダー研修会が開かれました

8月31日(日)午前10時から午後3時まで浦和市のコミュニティーセンターで第3回リーダー研修会が開かれました。本部指導部主任の藤本和典さんを講師にむかえ、若き美女から若くないおじさんまで合計26人が参加して、予定時間をオーバーした熱心な研修会で、日本野鳥の会の歴史と果すべき役割、探鳥会の指導方法と安全対策、支部の沿革などについて学びました。

さっそく9月の探鳥会からは新人リーダーたちが活躍しています。みんないっしょけんめいですから、至らぬ点はごかんべんください。どうかいじめないでください。さわらないでください。石をぶつけないでください。



参加者(50音順) = 赤瀬征雄、浅田徳次、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大橋義男、岡田文男、岡安征也、北川慎一、木村義人、草間和子、楠見邦博、楠見文子、黒田佳子、小荷田行男、近藤崇、正藤寛一郎、鈴木加代子、中島康夫、乗田実、萩原正二、福井恒人、福井亘、藤原寛治、山部直喜、渡辺周司。

題字『しらこぼと』：日本野鳥の会会長・山下静一

(イラスト風見出し・鷹尾正斉)

『しらこぼと』

1986年10月号(第29号)

頒価100円(会費に含まれます)

発行人 今井昌彦

発行所 日本野鳥の会埼玉県支部

発行所事務局 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

電話 0488(32)4062

郵便振替 東京9-121130 銀行振込口座 埼玉銀行浦和支店普通預金316990

印刷所 望月印刷株式会社

会員数は

9月20日現在591人です。会費の納入が2か月以上遅れている方は会員数に含まれていません。会費の継続をお願いします。

活動報告

8月10日 役員会(事務局と各部の報告、関東ブロック会議出席者、年末室内会、ヘルシー埼玉21県民運動について、その他)。

同日 普及部会議、総務部会議。

8月12日 望月印刷(株)と『しらこぼと』増部の場合の印刷代について話し合い。

8月16日 2か月以上の会費滞納者整理。

8月17日 編集部会議。

8月23日 草間和子事業部員がワッペンの中で業者と打合せ。

同日 海老原美夫副支部長が関東ブロック会議に出席(バードソン、三宅島、会費の銀行振込制度、支部報の編集、鳥獣保護員制度、その他)。

8月30日 『しらこぼと』9月号袋詰め(ボランティア6人)。9月1日発送。

8月30、31日 研究部夏鳥調査集計作業。



三浦半島でオオミズナギドリとクルーザーの大群を見ていて思いました。ダイビングが完全にナウいスポーツの仲間入りをしたのに、本質的に大差ない鳥見からは、何故ネクラなイメージが消えないのでせう?やはり、小生を含めた鳥見人のファッション性の低さ故でせうか?この秋、鳥見もお洒落に(無理かなあ)...

(鈴木高士)

(無断転載を禁じます)